

項目	ご意見	市の考え方	担当課
基本方針	p.6 第1期総合戦略の成果と課題を踏まえて、とあるが、成果と課題をまとめたものを、まず冒頭に掲載してほしい。全体的に、何を目的とした戦略なのかが分かりにくいです。	第1期総合戦略については、行政審議会において各年度および4年間の効果検証を実施し、議事結果概要等としてまとめられていますので、その周知に努めます。 第2期総合戦略においては、第1期の基本的な方向性は継続していくとともに、さらに「多世代での人材育成・交流の推進」、「優良な地域資源の有効活用の推進」、「民間活力によるまちづくりの推進」の新たな3つの視点から施策に取り組み、たくさんの人が集い、また、住み続けたい、そして生涯にわたり活躍できるような魅力のあるまちをめざします。	総合政策課
基本方針	p.18やp.31など関連施策の列挙に各記載ページ数を付けて下さい。 (例)p.31放課後児童健全育成事業の充実(基本目標(1)p.18記載事業)	成案にする際にページ数を付します。	総合政策課
1. 子どもを産み育てやすい環境を整える	目標数字の設定根拠がわからない。高齢者時代、人口減少時代ではあるが、高石市の総人口をいかに60,000人台に復活させるかの目線、増やす目線で議論されていないように感じる。 要は、人口減少を食い止めるだけの施策のように思う。本当に、高石は住みやすい、子育てがしやすい、永く暮らしたいと高石市の住人および近郊に住んでいる方々に市の政策が響いているならば、60,000人を割り込むことはなかったはずである。 幼稚園の廃止や南海高架化完成後に議論されるであろう小学校の校区再編の話は、子育て世代を増やす目線と到底思えない。	各数値目標について、人口ビジョン及び様々な統計調査や各種計画等を勘案し、本市の状況やめざすべき将来の方向性に沿って、人口減少に歯止めをかけるとともに、活発な産業をもち、住みやすいベッドタウンとしての特性をもった、活力あるまち「たかいし」を発展させることを目的として設定しています。	総合政策課
1. 子どもを産み育てやすい環境を整える	また、妊娠・出産から子育て期における切れ目ない支援の充実に関して、KPIで支援満足度90%、結婚のための出会いの機会創出でイベント参加者各年60人子育てウェルカムステーション「HUGOOD」のさらなる活用でKPIを以外の利用者が高石市に住みやすそうと感じた割合令和6年度80%、市内の利用者が高石市にすみつづけたと感じた割合令和6年度80%と掲げられているが、KPIを決定された根拠がわからない。なぜHUGOOD目線で物事を進めるのかわからない。もう少し広く市民に意見を聴取すべきであると思われる。 人口減少の時代ではあるが、明石市や堺北区中百舌鳥の様に人口の転入が転出を上回っている市や区が存在している。	妊娠・出産から子育て期における切れ目ない支援の充実について、利用者に対しアンケートを実施し、支援の満足度をKPIとします。より多くの利用者が満足することで、支援の充実度を測る指標となるため、90%を目標として設定しています。 結婚のための出会いの機会創出は、民間事業者が主催するイベントを支援し、そのイベントへの参加者数をKPIとすることで婚姻率の向上に寄与できるものと考えています。 また、平成28年にアプラたかいしに開設した子育てウェルカムステーション「HUGOOD」は、子育て世代への情報発信の拠点として人気の施設となり、年間約5万人、のべ約15万人が利用され、若年層の人口を転出増から転入増へシフトさせるなどといった成果をあげてきました。今後もHUGOODをはじめ、子育て支援と学校教育の充実を図り、市外在住者を含む子育て世代の定住促進が一層進むよう取り組んでいきます。	地域包括ケア推進課 こども家庭課 総合政策課
1. 子どもを産み育てやすい環境を整える	また、子育て世代の定住を目指して固定資産税の減免もわかるが、転入数を増やすならば、以前高石市の施策として実施されていた新婚世帯に対する補助金を復活させてはどうかと思われる。市の財政が苦しいと言っている割には体育館の移設、道路の整備など箱物を実施しているほどの予算があるわけだから、可能ではなかったか。	以前実施していました「高石市新婚世帯向け家賃補助制度」により、新婚世帯の市内への転入につきましては、一時的には増加する傾向にはありましたが、市の家賃補助期間の終了後、他市町村へ転出されたケースがありました。 一方、ピーク時には約3億円の市の単独での財政負担となり、費用対効果の面から、見直しを行いました。 現在、子育て世帯などへの住宅施策として、定住につながる新築住宅の固定資産税の軽減に形を変えて実施しております。 また、安全安心で災害に強いまちづくりの推進のために、連続立体交差事業や南海中央線などの都市基盤整備をはじめ、災害時に防災拠点となる総合体育館や蓮池公園の整備など、必要がある事業については、引き続き実施していきます。	建築住宅課 事業課
1. 子どもを産み育てやすい環境を整える	p.15 前計画では平成31年度の出生数KPIを700人としていた。平成30年度で489人(実数418人?)だった現状を考えると、本計画での令和6年度の600人も相当無理があるので、せめて500人くらいの達成可能性の高い目標数値にしては如何でしょうか。	数値目標の出生数については、過去の出生数も参考に、施策の達成状況の推移も踏まえて設定しています。	総合政策課
2. 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える	高石市には働きたいと思える企業が少ないと思われる。少し臨海工業地帯の企業に頼りすぎな感じがする。今後、第4次産業革命の中心と言われている5G通信、IT、IoTなどの企業を、市が中心となって羽衣駅、高石駅など高石の主要駅に企業ビルの整備を行い、市が積極的に誘致すべきである。	産業の移り変わりはありますが、高石市の強みは、大小さまざまな製造関連・化学関連の企業が臨海部に集積していることであると考えています。 産業構造の変化に対応できるよう、企業立地促進制度などの施策により、今後も臨海企業の発展を支援していくこととしています。 また、あわせて起業家の育成やスタートアップ企業のバックアップについては、重要な課題であると認識しています。 これらについては、総合戦略第2章(2)ー④のうち、創業支援の項目にある施策により進めていきます。	経済課

項目	ご意見	市の考え方	担当課
2. 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える	高石市の児童はスマホの保有率が高く、その影響で学力が弱いと叫ばれているが、逆手にとって、そのような機器に興味がある児童が多いはずである。将来を担う世代に対して、未来を創造できるような体験型施設を設定してあげても良いかと思われる。	体験型施設の設置については今後の課題にしたいと考えています。なお、国のGIGAスクール構想により、小中学生に1人1台の端末が配備される予定ですので、その活用を進めていきます。	学校教育課
3. いつまでも健幸に過ごせる環境を整える	健幸、健幸と言われているが、高石駅周辺の「アブラたかいし」中心であり、高石は交通の弁が良いと言われるが、羽衣、東羽衣などの高石駅より北側の高齢者は高石駅まで通えていないと思われる。高齢者のお出かけがしやすくなるには、更にコミュニティバスの本数を増やすべきだと思う。	平成29年8月より福祉バスを2台から3台に増車し、ルート及び停留所等も年次的にニーズに沿って見直しを行ってきたところで、また、全てのルートで高石駅の「アブラたかいし」停留所に停車するようにしています。今後も市民の皆様からのご意見を踏まえ、より一層ご利用頂けるよう取り組んでいきます。	高齢・障がい福祉課
3. いつまでも健幸に過ごせる環境を整える	p.40 KPI医療・介護給付費の抑制額2億2,600万円に、現時点でのR6年度介護給付費総額見込を併記しないと、抑制(効果)額が分からないのでは？	KPIとして記載しています医療・介護給付費の抑制額は、以前に実施した健幸ポイント事業の実証データや、介護認定率や介護リスクを元に計算しています。医療・介護給付費の令和6年度時点での見込みについては、現時点では未定となりますが、平成30年度時点の医療費・介護給付費の総額については、約184億円となっています。	健幸づくり課
3. いつまでも健幸に過ごせる環境を整える	p.47 医療介護連携数は、具体的にどのような連携を数えるのか明記を。中身がさっぱり見えません。	医療介護連携数とは、入退院後の病院、医師と介護保険のサービス利用をスムーズに行えるように連絡調整をする事が中心ですが、要介護認定が必要になった際、医療機関を受診したことがない方の支援や、これまでは通院が可能だった方が訪問診療を希望された場合の調整など、医療と介護の橋渡しの支援の件数を想定しています。	地域包括ケア推進課
3. いつまでも健幸に過ごせる環境を整える	P.48 医療介護連携がうまくいっていると感じている専門職の割合、をKPIにしていますが、専門職というのは医師・看護師・保健師・社会福祉士などの専門的な資格を持っている人のことですか。感じている、というのはアンケートを採るのでしょうか。アンケートを採るなら、専門職ではなく利用者のほうが実態が分かるのではないのでしょうか。なのでKPIは「連携がうまくいっていると感じている利用者の割合」とすることを提案します。	在宅医療介護連携の推進のため、医療・介護・訪問看護・地域包括支援センター等の関係機関のスムーズな連携体制が必要となることから、指標としては医師、看護師、介護従事者等の専門職に対し、医療・介護連携がうまくいっていると感じているかアンケート調査を実施して図ります。まずは、在宅医療・介護(他職種)連携のルール作りを進めることにより、点ではなく面として事業展開をすすめていきたいと考えています。	地域包括ケア推進課
4. 人が集い、住みたくなる環境を整える	真剣に文教都市を高石市が目指すならば、先にも記載した様な、今後世の中のものに中心になるであろう、IoT、IT、5Gなどの通信インフラ系の企業の誘致をし、子供達に住みたくなる様な未来を見せる興味をもたせるべきである。旧来の製造業ばかりに頼っていても廃れるだけである。また、英語も英検だけではなく、企業で必須となってきている「TOEIC」やビジネススクールの「グロービス」などの体験をさせる機会を設けて、本当の起業家を高石市から排出させる様にはどうか。英語教育の推進にも繋がるし、高石市がファンドやクラウドファンディングの中心となり、スタートアップ企業のバックアップをすれば、高石市のブランド向上にも繋がり良いと思う。	高石市の特長は、大小さまざまな製造関連・化学関連の企業が臨海部に集積しており、製造品出荷額は、府下第7位と大きいことです。産業構造の変化に対応できるよう今後とも、企業立地促進制度などの施策により、臨海企業の発展を支援していきたいと考えています。また、あわせて起業家の育成やスタートアップ企業のバックアップについては、重要な課題であると認識しており、総合戦略第2章(2)－④のうち、創業支援の項目にある施策により進めることとしています。なお英語教育については、平成25年度から本市の全小学校において、外国語活動における教育課程の特例措置を申請して、小学校1年生から英語に「慣れ、親しむ」環境を作り、推進しております。	経済課
4. 人が集い、住みたくなる環境を整える	駅周辺のリノベーション活性化事業については、すでに箱物「アブラたかいし」が揃っている高石駅周辺中心ではないと思える。高石駅の乗降人員数は約1万人/日であり、一方羽衣駅は約2万人/日であるにもかかわらず、羽衣駅には活気がない様である。最近特に羽衣駅周辺には調剤薬局だけが増えており、夕方になるとシャッターが閉まっているので飲食店はあるもののどのように感じている。堺の不動産屋では、急行停車駅で人気のある順は、堺駅＞泉大津駅＞羽衣駅の順であり、羽衣駅周辺は駅を少し離れると道が狭く、さらに暗くて防犯上、心配する世帯が多く、高石に転居を勧める状況ではないと聞いている。駅の周辺リノベーションは高石駅中心に考えるのではなく、羽衣駅、高石駅、富木駅を俯瞰しながら、何を進めるかだと思ふ。	現在、南海本線・高師浜線連続立体交差事業が先行していることから、連立事業の進捗状況に合わせて、高石駅周辺整備の検討を行っていくこととなります。羽衣駅前再開発事業は、再開発ビルに加えてペDESTリアンデッキ(区域内)や周辺道路・駅前広場等の公共施設を含めた事業となります。基本的に組合施行の中で議論を行い協議調整の結果、現在の計画で合意が進められて来た事業となりまして、限られた敷地の中で商業施設や駐車場等のスペースの確保や様々な課題を解決した結果、今回の形となっています。また、交通結節点である羽衣駅前地区の利便性の向上に加えて、市内交通安全の観点から本市の責務として、ペDESTリアンデッキを整備しました。地元事業者の方々においても、この再開発事業を契機に商業振興に取り組んで行かれるならば、市としましても引き続き応援をさせて頂きたいと考えています。また、富木駅については、駅西側の改札の整備や駅ホームの視覚障害者のための内方線付き点字ブロックなど、バリアフリー化を完了したところです。今後、富木駅東側の整備についても、地元や土地所有者であるJR西日本と協議を行い検討を進める予定です。	事業課
4. 人が集い、住みたくなる環境を整える	P.62 前計画および本年1月16日に開催された行政計画審議会です示された本計画(案)には「少人数教育の促進」として「生徒一人一人にきめ細やかな教育を行えるよう、少人数教育の取り組みを進めます」と明記していたのに、今回示された本計画案には、その文言がすべて削除されているのはなぜか。このことは目標として明記してください。	行政計画審議会の審議においても、少人数指導及びICTの活用については連携しており、どちらも学力向上をめざすことを到達目標としているとの意見をいただいたことから、統合させていただいています。目標としては、1人1台のタブレットを活用することで、学びあいや個別学習を充実させる新しい授業スタイルを構築し、学力向上をめざすこととし、結果として一人ひとりに対し、きめ細かい教育ができると考えています。	学校教育課